

さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 8 令和5年3月15日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

いっしょでたのしいね (花組)



お別れ遠足やお別れ会を経て、子どもたちの中にも“進級”を意識する姿が少しずつ増えてきました。まだ遊びたい思いが強く、片づけが嫌だった子どもたちも「もう逃げないもんね!」「お片付け名人だから!」と少しずつ自分から気持ちを切り替えて頑張ろうとしています。花組の名札を見て「あ!」と気づいた Aくんは風組の名札と見比べて「風組さんになったら名札の色は黄色だよ!」とみんなに教えていました。お弁当時のやかん運びのお手伝いにも意欲的で「私はもう4回もお当番したよ!」と自分でできることが増えて嬉しそうです。

今までは“先生と一緒に”が多かった花組の子どもたちも、近頃は「〇〇ちゃん、〇〇くん、一緒に遊ぼう!」と友達の名前を呼んで遊びが始まることが多くなりました。登園すると、好きな遊びが一緒に友達のところへ行き、同じお面や衣装をつくったり身に着けたりして準備を始めます。

ある日、新撰組の衣装やポケモンのお面をつくった子どもたちが戸外に出ていきました。「みんなー!集まれー!」と叫ぶBくんの声を聞いて周りの子どもたちが集まりました。Bくんは「いいか、大事な話をするから、座って。」と言い、みんなは輪になって座り、真剣な顔でBくんを見ていました。Bくんは声のトーンを抑えながら「ここは危険なところだ。あの木の後ろに悪者のサルがいる。この木の下には絶滅生物がいる。分かったか。」と説明し、「うんうん」と深く頷く子どもたち。そして、「みんなで行くぞー!」「おー!」と元氣よく立ち上がり、目に見えぬ敵との戦いに向かっていきました。その後は「次は僕がやりたい。みんなー!集まれー!」とCくんが声を上げたり、「僕たちは2人で話そう。」とDくんとEくんが一緒に声をかけたりしていました。



また、子どもたちはよく「ワニワニごっこする人この指とまれー!」の声を聞いて集まって、鬼ごっこを楽しんでいます。他にも“だるまさんが転んだ”や“はないちもんめ”“あぶくたつた”などの遊びも大好きです。ある時、Fちゃんが「鬼決めでワニになる人決めよう。」と言い、片方の足を付け合わせて「鬼決め鬼決め、鬼じゃないよ。」と指で数える方法を友達に教えていました。大半の子どもたちは、やり方が分からなかったのですが、風組や星組がやっているような方法に興味津々でした。このように、子どもたち同士で決まった掛け声を使ったり、誘い合ったりしながら

友達同士で遊び出せるようになりました。面白そうな友達の話に耳を傾けたり、友達が自分の話を聞いてくれることが嬉しくなったりし、子ども同士の会話が楽しく豊かなものになっています。これまでの経験が、風組になって、さらに友達と一緒に遊びを進める力につながっていくのだろうなと思います。大切な仲間と一緒に、これからもっともっと大きくなっていくことを楽しみにしています! (雨谷)

おおきくなるってことは… (風組)

ある日の登園後、保育者がAちゃんに「花組さんがAちゃんたちにサラ粉もらって嬉しかったんだって。」と伝えると、「へえ、そうなんだ。」とAちゃん。思いのほか冷静な反応だったAちゃんでしたが、一緒にサラ粉をつくったBちゃんとCちゃんのもとへ行き、何かを話し合ってから裏庭に出ていきました。3人はこの日もサラ粉をつくることにしたようで、しばらく黙々とサラ粉をつくり続け、出来たサラ粉を手押し車の中に溜めていっていました。そこに、花組さんが二人やってくると「ほら。やっぱり。」「来た、来た。」と嬉しそうなAちゃんたち。花組さんが欲しいという分だけ手押し車からサラ粉をあげていました。その後も、自分たちのサラ粉かき氷をつくりながら、花組さんが「サラ粉ください。」と来るたびに、花組さんにサラ粉をあげていました。次から次へと来る花組さんに「また来た。」「サラ粉がなくなるくらい来るんじゃない。」と嬉しい悲鳴の3人は、「先生も、花組さんのためにサラ粉つくるの頑張ってるよ。」と、猫の手も借りたいほど大忙しでした。Aちゃんたちの表情は、小さいクラスの友達に頼られる喜びに満ちていて、春の陽ざしのように優しく温かい表情でした。

農場に行った後から、毎日少しずつ準備をして迎えた星組さんとお別れ会。プレゼントは「〇〇くんにあげる。」「僕は赤が好きだけど、〇〇ちゃんは黄色が好きだと思うから、黄色で塗ろう。」など星組さんの一人一人を思い浮かべながら気持ちを込めてつくりました。会場になる遊戯室の飾りも、「僕が好きな新幹線を描いたんだけど、新幹線が好きな子がいるんだなって思ってもらえると思う。」と言って文字や絵を描いたり、「遊戯室は広いから、輪飾りを長いのにしないと。」「みんなのつくった輪飾りをつなげたら、絵本コーナーまで届くくらい長くなるんじゃない?」「これじゃ、まだまだ届かないよ。」と言いながら輪飾りをつくったりと、自分ができることやしたいことをしながら準備をしてきました。お別れ会が終わった後、星組さんから「さっきはプレゼントありがとう。」「風組さんのこと忘れないよ。」「僕のつくった人形の作り方教えようか?」などと声をかけてもらえました。風組の子どもたちは、自分たちの気持ちが、星組さんに届いたと感じたことでしょう。



4月の頃は、自分の思いを出すことに必死だった子どもたちが、今は誰かのために何かをすることを喜べるようになりました。一人一人にそれぞれの良さがあり、一人一人が違うからこそ一緒にいるのが楽しくて嬉しくて、友達のことが大好きになっていく。そんな大切なことを姿で表現してくれた風組さんでした。 (中原)

「もうすぐ小学生」が楽しみな星組

年長児は2月下旬から卒業式の練習が始まり、卒業・進学に向かう生活になりました。卒業式での「お別れの言葉」でどんなことを言いたいかを、幼稚園での生活や遊びを振り返りながらクラスや学年で相談しました。思い出に残っている遊びは、いろいろなごっこ遊びをしたことや大勢で「しっぽとり」「サッカー・バレーボール・ドッチボール」をしたことなどで、運動的な遊びを存分に楽しんだことがよく分かりました。行事では運動会・クリスマス会が印象深いようでした。園での生活を振り返っていると「跳び箱をまたしたい」という声が続くもあがったので、久しぶりに遊戯室に跳び箱を楽しむ場を用意しました。思い出したようにいろいろな子どもが加わって取り組み、運動会の時よりも上手に跳べるようになっていました。また、運動会では横向きにした跳び箱を跳んでいましたが、より難しい縦向きにして挑戦する姿も見られました。運動会までに何度も挑戦して跳べるようになった経験からでしょうか、粘り強く挑戦し続け、縦向きの跳び箱も跳べるようになっていきました。頑張ったらできるという経験が自信となり、次の取り組みへの意欲につながっていると感じました。

3月は、1年生の「算数」「体育」の授業参観に行きました。「算数」の授業では、参観の後、1年生がしていた図形作りを1年生の席に座らせてもらって教わりながら、やらせてもらいました。園に帰って授業参観の感想を聞いてみると、小学生になったら勉強は「算数が楽しみ」と言っていました。「給食」に加えて「算数」も小学校でする楽しみなことになったようです。

1年生の授業参観後、3年生の「総合的な学習」でも年長児との交流の機会をもつことができました。3年生が趣向を凝らしたお店屋さんやゲーム遊びの場を用意してくれて、年長児をお客として招いてくれました。年長児を楽しませようという3年生のあたたかい気持ちが、言葉のやり取りや関わり方に表れていました。年長児にとっては、自分たちが小学校に入学するのを待っていてくれる先輩たちがたくさんいることが実感でき、進学への期待が膨らむ交流になりました。

園生活も残り僅かになり、小学生になることにワクワクしながら、幼稚園生活を惜しむようにこれまで楽しんで遊んでいた遊びをしたり、年下のクラスを遊びに招いたり、異年齢でサッカーやはないちもんめをしたりして最後まで存分に遊びを楽しむ生活をしています。 (高田)



園庭のチューリップが少しずつ背を伸ばし、子どもたちの進級や進学を祝うために花を咲かせる準備を始めているようです。

子どもたちも一つお姉さんやお兄さんになる喜びを感じているようです。このさくらんぼを通じて、子どもたちがたくさん遊んで育っていく様子を皆様にお伝えできていたなら幸いです。

1年間、ありがとうございました。

